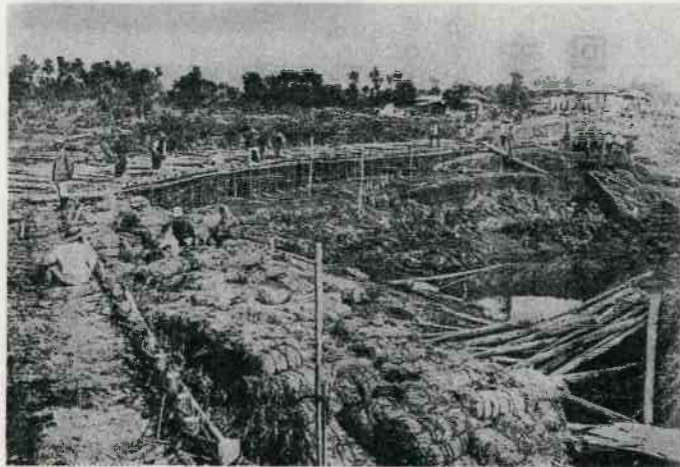


六郷特別出張所管内	
人口	男32,282名
	女29,917名
	計62,199名
世帯数	26,246世帯
平成6年9月1日現在	

六郷わがまち

発行 わがまち大田
 六郷地区推進委員会
 編集 「六郷わがまち」編集委員会
 事務局 大田区六郷特別出張所
 〒144 大田区仲六郷2-42-2
 電話 03(3732)4885(代)



明治43年(1910)8月の大洪水で濁流が直撃した西六郷一丁目の旧堤防が決壊。このため六郷・羽田・蒲田・大森などは泥海と化し、東海道本線は1週間も不通となった。



今の堤防は明治43年の最高水位より1.5m高い出水量に耐えられるよう築かれたが、自然の地形そのものは変わっていない。テトラポットが水勢をそぐために並んでいる。

目で見るいまむかし

(5) — 旧堤決壊

△解説・平野順治▽

昭和35年ごろから婦人部が廃品回収を行っていましたが、町会の事業としてスタートしたのは42年4月。それが今春からさらに組織化されたわけです。町内に25カ所のステーション



ステーションでの積み込みに汗を流す

南六郷一丁目町会は、ことし3月から大田区の要請をうけ、空きびん・空き缶の集団回収を行ってしています。六郷地区の町会としては最初であり、これを機に新しくリサイクル部が新設されました。

積極的・組織的に推進する活動

南六郷一丁目町会

東京都から23区への清掃事業の移管が問題になっていますが、大田区では資源ごみの集団回収と再生利用をはかるため、新しくリサイクル推進課を設け、京浜島に完成した資源化センターも4月から稼働しています。これは、びんと缶の中間処理施設で、23区では初めてのものです。六郷地区でもこれに呼応して、さらにリサイクル活動の輪をひろげようではありませんか。

を設け、毎月第1日曜日に新聞・雑誌・段ボール・ボロなどを、

第2・第4の木曜日に空きびん・空き缶を、町会役員や地区班長など約30名が車で2時間ほどかけて回収しています。町民広場には、平成3年と5年に区から貸与された倉庫2棟があり、牛乳パックの回収箱も常設されています。

月平均の回収量は、空きびん1630kg、空き缶1150kg、新聞6000kg、雑誌2000kg、段ボール1000kg、ボロ200kg、業者は本羽田の中島商店と当初から取引しています。

これに伴う収益金は、子どもたちの夏季リクリエーションの催しや各種行事の費用の補助に当てています。

町会役員の年齢が比較的若いこともあり、リサイクル活動への取り組みはきわめて積極的です。

不用品交換会を年1回秋に開く

空き缶のプレス作業も園内で：

南六郷二丁目団地自治会
 昭和52年から年1回、不用品交換会を10月ごろ団地の中庭で

くすのき園
 南六郷福祉園のとなりにある大田区立くすのき園(精神薄弱

地域の人々とのふれあい求めて

南六郷福祉園

昭和63年4月にオープンした大田区立南六郷福祉園(精神薄弱者更生施設)では、地域の人々とのふれあい、環境美化への協力を目的として、毎週月曜日と木曜に、利用者と職員がリヤカーを曳き主に地元の南六郷三丁目町会を歩いてアルミ缶を回収、プレス作業もしています。

廃品にも生き返る未来がある

アルミ缶回収の必要なわけ

ボーキサイトを輸入し、精錬工場で1tのアルミのインゴット(粗鋼)を生産するのに、4人家族の家庭で使う電力の7年分が必要です。これでは企業が手を引くのは当然で、わが国に10数カ所あった精錬工場が今では1カ所しかありません。

あとはすべてアルミ缶などの再生工場です。アルミ缶はすでにアルミニウムになっているので、電力が97%も節約できます。アルミ缶回収の必要性は、こうした事情にもよるのです。

(編集委員・竹内昭信)



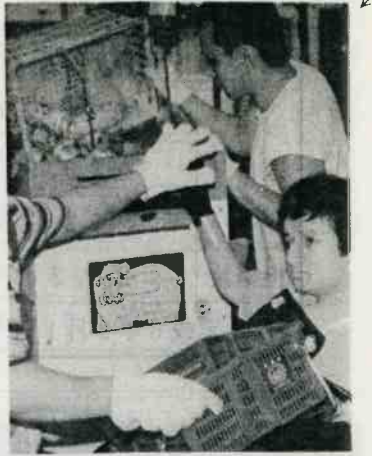
ご自慢のアート“空き缶ハウス”

自分たちの町を自分たちの手できれいにしようと、PTAの全面的協力で、ことしから児童たちが第2・第4の水曜日、きれいに洗った空き缶をビニール袋に入れて持参し、アルミとスチールに分別された回収ボックスに入れていきます。昨年は校舎4階の多目的ホー

空き缶をアートにした児童たち

南六郷小学校

アルミ缶は月に1000kg、スチール缶は150kg、回収した空き缶をプレスする作業も、園生が5〜6人のグループで1日4時間ほど機械を動かしています。



プレス作業に励む福祉園利用者

ルに空き缶6500個で作った高さ3m近く、広さが12平方mもある“空き缶ハウス”が、置かれました。これは秋の展覧会に3年生と5年生の108人が、創作した“アート”です。このように役立てる方法もあるという、一つの見本といえましょう。

生徒会が朝礼で回収量など発表

南六郷中学校

南六郷中学校でもPTAが協力し、平成3年9月から玄関に貼り紙をして生徒たち呼びかけ、毎月15日と16日に空き缶の回収をしています。朝礼で回収量や金額を生徒会が発表。プールの収益金は、城南養護学校のボランティアや国際的な援助活動に役立てています。

コミュニケーションにも役立つ

東六郷二丁目町会

平成元年4月から3年3月まで大田区から美化モデル地区の指定をうけ、町を美しくする運動からゴミをなくす運動にすすみ、さらにリサイクル活動へと発展し、住民のコミュニケーションにも役立っています。毎月、閲覧板で協力を呼びかけ、回収日の第3日曜日には約30カ所のステーションに掲示板を立てて、新聞・雑誌・段ボール・牛乳パックを集め、それを奉仕の軽自動車4〜5台が巡回して積み込み、町内会館前まで持って来ます。

ちょうどその時刻に見合うように秋山商店のトラックに来てもらい、車から車へ積み替えています。余計な手間をはぶく合理的な方法といえましょう。

常時20人ぐらいが回収作業に協力し、月平均で新聞7000kg、雑誌1500kg、段ボール70kgを回収し、業者からの収益と区からの報奨金は約63000円、これは積み立てて町会運営費に当てています。



町内の回収車から業者のトラックへ

なお牛乳パックは中を洗い、開いてストックヤードへ。牛乳パックは良質の紙なので、これを漉いて手製のはがき作りにも挑戦しています。

ステーション設置場所を検討中

東六郷二丁目町会

昨年より役員会でリサイクル運動の提案がなされ、このほど全員協力して実行に移すことが内定しましたが、集積ステーションをどこに設置するかが問題となり、目下、検討中です。

東栄昭和会などが回収にはげむ

東六郷三丁目町会

町会としては特別にリサイクル活動はしていませんが、東栄昭和会という親睦団体が十数年前から、新聞・雑誌・段ボールなどを月1回持ち寄り、秋山商店に回収を頼んでいます。

また東六郷児童館の父母会でも、偶数月に1回、廃品を回収して有志の車で業者のところへ

運搬し、収益金は館の催し物などに使っています。

婦人会の役員がごみの減量運動

宮本町会

昭和47年から婦人会の役員がごみ減量運動として、毎月第4木曜日に新聞・雑誌・段ボール・ボロなどを、各戸を回って集めています。

倉庫のある2カ所と指定場所5カ所まで運ぶと、町内の伊藤興商店の車がやって来ます。月平均約5トン。なおアルミ缶は有志の者が、くすのき園や六郷生活学校へ持参しています。リサイクルの協力家庭には、2〜3年に1度トイレットペーパーを配り、夏休みの子ども会や敬老会にも、報奨金などで買った品物を贈っています。

編集委員会だより

「六郷わがまち」編集委員会は、6月29日、リサイクル推進課長の平野壽氏をまねき、いろいろお話をうかがいましたが、その中で次のような指摘がとくに印象に残りました。

480haの羽田沖埋め立ては都知事ができる最後のものだが、これも15〜20年で限界に達してしまう。リサイクル運動の必要性はいうまでもないが、ごみをどう減らすか、という問題がそれ以前に控えている。メーカーはごみになる物を作らない。過剰包装をやめる。消費者も使い捨てを見直し、不用品の再利用システムなどを考えるべきだ。これを受けて編集委員の中から、六郷全体でもそうした不用品交換会を自主管理で開いたらどうだろうか、という提言がありました。

また7月12日には、京浜島の資源化センターを見学しました。

六郷の草たち ⑥

秋の深まる頃、六郷の河原の川岸や斜面のしげみに、橙紅色の2センチほどの小さな実を見つけることができます。これはクコの実で、手にとると楕円形のランプが



クコ (ナス科)

灯っているようです。クコは春先に若芽を摘んで、おひたし・あえものに利用でき、夏には小さな紫色の花を咲かせ、秋の実では疲労回復に効果があるというクコ酒が作れます。クコは六郷の河原に群生している、食べられて、薬用になる身近な低木です。

(古屋のり子)